

挑戦

2022. 5. 19

全く知らない世界に挑戦したことで、物事の見え方が変わり、新しい目標ができ、習慣が変わり、
どんどん人生が変わっていききました

先日、上記の文に出会った。そして、考えた。人生80年として、まだまだ挑戦する時間はある。
しかしである。その勇気がない。教育公務員として、組織の中で仕事をし、生きてきた人間である。
極端に言えば、自分では何もしていない。すべて、やっていただいている。

自営業のように、自分で何もかもやるというのは、うまくいくイメージがわからない。そもそも向
いているとも思えない。そうであるならば、教育関係とは全く違った職種で、かつ組織の中で仕事
はできないものかと考える。

すると、自分のウィークポイントが浮き彫りになる。パソコンである。私のような一太郎人間は
使いものにならない。ワードでさえおぼつかない。エクセルは、人のデータをいじっているだけで
ある。まだパワーポイントの方がましである。これでは、雇ってもらえるとは思えない。

それでも、何か新しいことをやってみたいという気持ちはある。だからと言って、挑戦というレ
ベルにまでは達していない。結局、考えても結論が出ないまま時間だけが経過していく。ネットで
どんな仕事があるのか調べたこともある。意外とたくさんある。何かはできそうである。

どうせならば、多少の恐怖感があったとしても、全く知らない世界に飛び込んだ方がおもしろそ
うである。物事の見え方が変わるのは魅力である。ましてや習慣が変わるのは、さらにありがたい。
誰でも違う自分に会ってみたいという気持ちはないだろうか。違う自分を探したい気持ちがどこか
にないだろうか。

そもそも教員が天職などとは思ってこなかった人間である。参考までに、占いの類をしてみる。
あなたに合っている職業に「教員」とか「学校の先生」という文字を見たことがない。本当に向い
ていないのだと思い知らされる。逆に、向いている職業を見ていると、現実離れしたものが並ぶ。
それで、八方ふさがりとなる。

いつもの結論が出る。とりあえず、今の仕事、今のポジションを全うするしかないとなる。よく
わからないが、今を全力で駆け抜けた先に何かがある、何かを待っているような気がする。あるい
は、やり切った後でないと、新たな挑戦へとは進めないのかもしれない。挑戦、それはすなわち、
今を生き切ることなのかもしれない。